

令和5年度 学校経営計画に対する中間評価報告書

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題、改善策等)
1 国際社会に貢献する人材の育成を主眼として、高い志を掲げ、その実現に向け主体的に努力でき、難関国公立大学等の大学に果敢にチャレンジする生徒を育てる。	① GIGAスクール構想に基づくICT機器の活用等を通じて、生徒の思考力、判断力、問題解決能力、表現力の育成を目指し、授業力の向上を図る。	教務課 全教員	授業評価において、「授業のねらい」「教員の熱意や工夫」「説明や指示」「考えさせる場面」「興味・関心が高まる」の5項目におけるA評価の平均が A 55%以上 B 50%以上 C 45%以上 D 45%未満	[7月実施「前期生徒による授業評価」] A評価の平均 56.4% →【判定 A】 <内訳> 「授業のねらい」 57.2% 「教員の熱意や工夫」 61.3% 「説明や指示」 56.6% 「考えさせる場面」 62.3% 「興味・関心が高まる」 44.7%	昨年度前期と比較して、A評価の平均は55.1%→56.4%であった。内訳は、「ねらい」56.0%→57.2%、「熱意や工夫」60.6%→61.3%、「説明や指示」55.2%→56.6%、「考えさせる場面」60.0%→62.3%、「興味・関心」43.7%→44.7%である。目標を達成し判定Aであり、全項目数値は向上した。しかし「興味・関心」の評価が低く、改善の余地がある。引き続き次年度に向けて、いかに生徒の学習意欲を高めるかに留意し、授業改善に努めたい。
	② 授業や総合的な探究の時間等の活動を通して、生徒が主体的に課題解決に取り組む姿勢を育む。	進路指導 NSH推進 教務 学年	自らの学習について (ア)授業や課題以外に積極的に取り組み、独自の学習にも取り組んでいる。 (イ)授業や課題に積極的に取り組んでいる。 (ウ)授業や課題には取り組むが、自らを高めようとする努力や意識が足りない。 (エ)その場しのぎの学習が多く、極端に悪い成績を取らないように勉強している。 (ア)+(イ)の合計が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 家庭学習時間が学年の目標値に達している1・2年生のそれぞれの割合が A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満	[7月実施「学校評価アンケート(生徒)」] (ア)+(イ)の合計 68.0% →【判定 C】 <内訳> 英語 65%(ア:19%、イ:46%) 数学 75%(ア:27%、イ:48%) 国語 64%(ア:11%、イ:53%) [5・7月実施「家庭学習時間調査」] 1年(2時間) 57.9% →【判定 B】 2年(2.5時間) 47.9% →【判定 C】	昨年度前期と比較して、英語59%→65%、数学74%→75%、国語55%→64%と3教科とも向上し、判定Bまであと1歩であった。生徒が自分に合った学習スタイルについて考え、主体的に学習に取り組むよう、生徒の自覚を促していくとともに、「興味・関心が高まる」ような仕掛けを考えて、得意分野を伸ばす発展的な学習に取り組ませていきたい。授業や課題の意義を認識しながらも、積極的な取組につながらない生徒もいる。学習に意欲的に取り組む姿勢を育てると同時に、1、2年のうちから、自分の将来について主体的に考えて学習できるよう、大学調べや職業研究を行ったり、卒業生の話を聞く機会を設けたり、学習への意欲につなげていきたい。総合的な探究の時間では、第1学年で、主体的に考え、行動する態度をワークを通して考えさせる。第2学年では課題研究を通して、自分は社会の課題についてどう考えるのか、どういう提案ができるのか、考えさせることで、主体的な活動に結びつけたい。
	③ 国際社会において必要不可欠な英語によるコミュニケーション能力を身に付けようとする態度を育成する。	NSH推進 外国語科	2年次12月に受検するGTEC検定版において、CEFR-Jの基準で、A2.2以上の成績を取った生徒の割合が、 A 70%以上 B 60%以上 C 40%以上 D 40%未満	[12月受検GTEC検定版] 12月受検するGTEC検定版の結果で判定	現時点では判定できないが、人文科学コースでは、「外国人との交流研修」を通して、英語に対する学習意欲はかなり高まっていると感じている。また、普通クラスの課題研究では外国人観光客にインタビューをするなど、英語によるコミュニケーション能力を高めようとする活動があった。
	④ 高い志を持って進路目標の実現に向かう生徒を育て、個々の生徒に応じた進路志望を達成する。	進路指導 教務 学年 教科	合格者数が ア 難関大学合格者数 20名以上 イ 金沢大学合格者数 60名以上 ウ 国公立大学合格者数 200名以上 A ア・イ・ウの3指標すべてを達成 B ア・イ・ウのうち、2指標を達成 C ア・イ・ウのうち、1指標を達成 D ア・イ・ウの3指標とも達成できず	[大学入試結果] 合格実績で判定	現時点では判定できないが、模試等の推移では例年並みの結果を残している。引き続き高い志を持った進路志望を実現できるよう指導していく。

令和5年度 学校経営計画に対する中間評価報告書

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題、改善策等)
	⑤ 「進学校における部活動」を追求し、学校として生徒が学習と部活動を両立できるよう配慮し、かつ指導を徹底している。	生徒指導 学年 各部顧問	限られた時間の中で効率的・効果的な活動に取り組んでいる部活動が (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (ア)+(イ)の合計が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	[7月実施「学校評価アンケート(生徒)】 (ア)+(イ)の合計 83%(ア:55%、イ:28%) →【判定 B】 <内訳> 1年 91%(ア:66%、イ:25%) 2年 87%(ア:53%、イ:34%) 3年 72%(ア:46%、イ:26%)	全体的には高い水準で、前年度80%と比較すると3%高い結果であったが学年が進むにしたがって肯定的な割合が低くなっている。 学業の質や量の関係、学年が進行するにつれ部活動の中心となること等、様々な状況を考えながら、休養日の設定や限られた時間の中でのより効率的・効果的な取り組みが必要となってくる。 今後も文武両道を目指し、取り組みの改善を促していきたい。
			下校時間を遵守している生徒が (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (ア)+(イ)の合計が A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満	[7月実施「学校評価アンケート(生徒)】 (ア)+(イ)の合計 87%(ア:62%、イ:25%) →【判定 C】 <内訳> 1年 87%(ア:63%、イ:24%) 2年 87%(ア:55%、イ:32%) 3年 95%(ア:76%、イ:19%)	前年度89%と比較すると2%低い結果であった。 学習や部活動により下校時間近くまで残っている生徒は多い。 特に部活動においては、部活動後の行動を素早くする等、時間の大切さを徹底させていきたい。
2 校訓「質実剛健」を不易のものとし、挨拶や感謝の心、規範意識やいじめを許さない姿勢など人としての基本を身に付けた、心身ともにたくましい生徒を育てる。	① 登下校指導、街頭指導、挨拶運動を通して規範意識を向上させる。	生徒指導 総務	・積極的に挨拶をしていることについて (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (ア)+(イ)の合計が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 ・きちんとした頭髪、服装をしていることについて (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (ア)+(イ)の合計が A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満	[7月実施「学校評価アンケート(生徒)】 (ア)+(イ)の合計 79%(ア:29%、イ:50%) →【判定 C】 <内訳> 1年 77%(ア:27%、イ:50%) 2年 78%(ア:24%、イ:54%) 3年 81%(ア:36%、イ:45%) [7月実施「学校評価アンケート(生徒)(保護者)】 (ア)+(イ)の合計 96.0% (生徒:97%、保護者:95%) →【判定 A】 <内訳> 1年 生徒97%(ア:66%、イ:31%) 2年 生徒99%(ア:65%、イ:34%) 3年 生徒96%(ア:65%、イ:31%) 注:保護者学年別データなし	前年度83%と比較すると4%低い結果となった。 コロナ禍での影響も考えられるが、朝の登校指導などを通じ今後も挨拶によって元気な学校となるよう声をかけていきたい。 生徒97%・保護者95%と高い結果となった。 頭髪に関する細かい規定がなくなりつつある中、今後も生徒自身が自ら考えてふさわしい容儀にこころがけるよう働きかけていきたい。
	② 交通安全教室、自転車マナー・ルール検定、街頭指導等を通して交通ルール遵守の指導を行う。	生徒指導 総務	生徒は自転車に乗車する際、交通ルールを (ア)いつも守っている (イ)だいたい守っている (ウ)あまり守っていない (エ)ほとんど守っていない (ア)が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	[7月実施「学校評価アンケート(生徒)】 (ア)59% →【判定 C】 <内訳> 1年 58% 2年 52% 3年 66%	前年度57%と比較すると2%高い結果であった。 今年度は自転車による交通事故件数が昨年度と同じ(6件)である。また、警察による交通指導件数については24件→23件で昨年度より1件減少している。 努力義務化されたヘルメット着用の啓発をはじめ、今後も交通事故防止の対策、マナーの向上を目指し、生徒への呼びかけ、朝の登校指導、下校時の自転車指導などを行ってきた。

令和5年度 学校経営計画に対する中間評価報告書

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題、改善策等)
	③ 各課や学年が連携を密にすることによって、生徒の悩み(学習・人間関係・部活動など)が深刻化し、不登校にならないように、相談しやすい環境を整える。	相談 生徒指導 保健 学年	(生徒用) 本校は悩み(学習・人間関係・いじめ・部活動・健康状態など)を相談しやすい。 (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (オ)わからない (ア)+(イ)が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満 (教員用) 相談課と各課・学年・関係委員会とが連携し、悩みがある生徒の早期発見と対策がとられている。 (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (オ)わからない (ア)が A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満	[7月実施「学校評価アンケート(生徒)】 (ア)+(イ)の合計 61%(ア:22%、イ:39%) →【判定 B】 <内訳> 1年 56%(ア:19%、イ:37%) 2年 60%(ア:22%、イ:38%) 3年 64%(ア:24%、イ:40%) [7月実施学校評価アンケート(教員)】 (ア)51% →【判定 B】	「よくあてはまる(22%)」「ほぼあてはまる(39%)」と答えた生徒が昨年よりも1%増加した。また、学年が上がるほど相談しやすいと感じていることがわかった。「わからない」と答える生徒の割合が多いのは、相談したことがないからだと考えられる。悩みを打ち明けやすい相談室になるように、集会や相談室だよりを通して、周知徹底できるようにしていきたい。 保健室にも悩みを相談に来る生徒は一定数いるので、アンケート結果は概ね良好だと感じる。生徒も教員もより相談しやすくするためにどのようにしていけばよいかを課内でも引き続き検討していきたい。 「よくあてはまる(51%)」と答えた教員が昨年度より3%増加したが、目標値には至らなかった。コロナ禍以降、不登校の傾向が見られる生徒数が以前と比較して増加している。各課・学年・関係委員会と連絡・連携を更に密にしていける必要がある。
	④ 面談等を通して、生徒が主体的に自分の生活や時間の使い方を振り返る、自律の態度を育成する。	生徒指導 学年	学習以外でのスマートフォンの使用時間が1日1時間以内であるという生徒が A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満	[7月実施「学校評価アンケート(生徒)】 20%(30分未満:3%、30～60分未満:17%) →【判定 D】 <内訳> 1年 18%(30分未満:2%、30～60分未満:16%) 2年 15%(30分未満:2%、30～60分未満:13%) 3年 28%(30分未満:4%、30～60分未満:24%)	昨年度と同様20%と低い結果であった。生徒によるスマートフォンの主な使用はゲーム・動画や音楽視聴・SNS・通話などと考えられ、学習に使用している生徒もいるが、多くはないように思われる。学校での使用は禁止となっている。家庭での使用時間についてもルールを決めるよう呼びかけもしているが守られていないのが現状である。 また、SNSの使用によるトラブルやモラルの問題、学習への弊害についても考えられるので、学年集会や担任の面談等により呼びかけ、進学校のあるべき使用方法を実践させたい。
	⑤ 幅広い読書を意欲的に行うことで思考と情操を深め、自らの人格形成に活かす生徒の育成を図る。	図書 学年	1ヶ月間に1冊以上本を読んだ生徒の割合が A 50%以上 B 40%以上 C 30%以上 D 30%未満	[読書量調査(生徒)】 6月1ヶ月間に1冊以上本を読んだ生徒の割合 27.8% →【判定 D】 <内訳> 1年 45.1% 2年 18.2% 3年 19.8%	R4年度は、6月1か月間読書した生徒の割合が1年35.1%、2年32.0%、3年20.6%、全体で29.3%であった。今年度は、2年の読書量が大幅に減っており、読書離れが進んでいることがはっきりと数字に現れている。2年理系は新教育課程で文学国語の授業を実施していない分、授業外で小説や随筆といった文学作品を読んで補う必要があり、2学期以降、国語科や2年学年団と連携して、文学作品を読む場面を増やす仕掛けづくりをしていきたい。
3	① 校長が示すビジョンとリーダーシップのもと、全教職員が組織的に協力し合いながら学校運営がなされている。	全教職員	業務の平準化に向けた取り組みがなされ、組織的な学校運営が進められている。 (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (ア)が A 40%以上 B 30%以上 C 20%以上 D 20%未満	[7月実施「学校評価アンケート(教員)】 アンケートの項目No.4「職員会議や各種会議が、効率的に運営され機能している。」で評価 (ア)26% →【判定 C】	業務を進める上で、その負担については経験値や得意・不得意により偏りが生じる場合があるが、組織的で効率的な運営のために、分掌間、分掌内での調整を各種会議の前に行うこと、業務実施後の反省を次に活かすことで改善を図りたい。

令和5年度 学校経営計画に対する中間評価報告書

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題、改善策等)																																
	② 校内研修会をより充実させ、今日的教育課題の理解とそれに対応しうる教員の資質を高めるとともに、若手教員早期育成プログラムを計画的に実施する。	教務 進路指導 保健 相談	取り組んだ研修の成果を教育活動の充実に役立てることができた。 (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (フ)が A 40%以上 B 30%以上 C 20%以上 D 20%未満	[7月実施「学校評価アンケート(教員)」] (7)28% →【判定 C】	大学受験に向けた進路指導の経験が少ない担任もいるので、進路検討会などを含め、情報の共有をできるように努める。 今年度、AED講習会をオンライン形式から実技形式へと戻したことは一定の効果があったと感じる。ただ、参加人数に関しては減少したので、今後どのように必要性を感じてもらえるかを検討していく必要がある。																																
	③ 部活動の活性化を通して、生徒が誠実に学校生活に取り組むとともに、自主性や自立心の育成を図る。	生徒指導 各部顧問	部活動に加入している生徒の割合が A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 80%未満	[5月集計「前期部活動加入状況」] 87.2% →【判定 B】 <内訳> <table border="1" data-bbox="1146 558 1628 743"> <thead> <tr> <th></th> <th>運動部</th> <th>文化部</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年 男子</td> <td>77.1%</td> <td>17.0%</td> <td>94.1%</td> </tr> <tr> <td>女子</td> <td>43.7%</td> <td>51.1%</td> <td>94.8%</td> </tr> <tr> <td>2年 男子</td> <td>86.8%</td> <td>8.4%</td> <td>95.2%</td> </tr> <tr> <td>女子</td> <td>50.8%</td> <td>37.8%</td> <td>88.6%</td> </tr> <tr> <td>3年 男子</td> <td>61.0%</td> <td>8.2%</td> <td>69.2%</td> </tr> <tr> <td>女子</td> <td>38.5%</td> <td>41.7%</td> <td>80.2%</td> </tr> <tr> <td>全体</td> <td>59.2%</td> <td>28.1%</td> <td>87.2%</td> </tr> </tbody> </table>		運動部	文化部	合計	1年 男子	77.1%	17.0%	94.1%	女子	43.7%	51.1%	94.8%	2年 男子	86.8%	8.4%	95.2%	女子	50.8%	37.8%	88.6%	3年 男子	61.0%	8.2%	69.2%	女子	38.5%	41.7%	80.2%	全体	59.2%	28.1%	87.2%	前年度90.2%と比較すると3.0%低い結果となった。学年が進行するにつれ加入率が下がるが、特に3年生男子の加入率が69.2%と低かった。 生徒が文武両道への意識を高く持ち続け、3年次まで継続して部活動ができるような部のあり方を再考し、活気が溢れている部活動につなげていきたい。
	運動部	文化部	合計																																		
1年 男子	77.1%	17.0%	94.1%																																		
女子	43.7%	51.1%	94.8%																																		
2年 男子	86.8%	8.4%	95.2%																																		
女子	50.8%	37.8%	88.6%																																		
3年 男子	61.0%	8.2%	69.2%																																		
女子	38.5%	41.7%	80.2%																																		
全体	59.2%	28.1%	87.2%																																		
	④ 本校の教育活動に参加する保護者、地域の方々及び同窓生(保護者等)を増やすことにより、生徒の活動の様子を直に見てもらい、家庭及び地域と学校との連携を更に深める。	総務 教務 生徒指導 学年 情報	本年度、下記の本校学校行事に参加した保護者の延べ人数が A 4500名以上 B 4300名以上 C 4000名以上 D 4000名未満 行事:PTA総会、桜高祭、学校公開、進路説明会、3S歩行、入学式、卒業式、学校訪問(中学校PTA) 年間を通じての本校ホームページへのアクセス数が A 40万件以上 B 35万件以上 C 30万件以上 D 30万件未満	[4~7月の実績] 保護者の延べ人数 1,516名 → <内訳> <table border="1" data-bbox="1146 829 1628 1114"> <thead> <tr> <th></th> <th>PTA総会</th> <th>進路説明会</th> <th>進路説明会</th> <th>入学式</th> <th>学校訪問(中学校PTA)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年</td> <td>364名</td> <td>273名</td> <td>124名</td> <td>522名</td> <td>233名</td> </tr> <tr> <td>3年</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		PTA総会	進路説明会	進路説明会	入学式	学校訪問(中学校PTA)	1年	364名	273名	124名	522名	233名	3年						感染症対策が緩和されたため人の動きはよくなったが、今後の後半期分の行事を加えても、評価はDにとどまりそうである。評価人数の設定や保護者が参加できる行事を増やすなど見直しが必要であると思われる。														
	PTA総会	進路説明会	進路説明会	入学式	学校訪問(中学校PTA)																																
1年	364名	273名	124名	522名	233名																																
3年																																					
4 組織運営・教職員の働き方の改善に対する意識を高め、時間外勤務時間の縮減に努め、より効果的な教育活動を実践する。	① 業務を細部まで見直し、会議や組織の運営、業務遂行の効率化、教職員の意識改革を進めることによりワークライフバランスを図り、教育活動の充実に努める。	管理職 全教職員	時間外勤務時間の縮減に努めることができた。 (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (フ)が (ア)+(イ)の合計が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	[7月実施「学校評価アンケート(教員)」] (7)+(イ)の合計 61% (ア:15%、イ:46%) →【判定 C】	「観点別評価」に対しての負担増加、新型コロナウイルス感染症の5類移行により行事や部活動が活発に行われるようになったことなどが要因と考えられる。 業務によってはできるだけ簡素化する、一人ではなく複数で行う、教材等は共有するなど、勤務時間を縮減できるような働きかけを行ってきたい。																																